

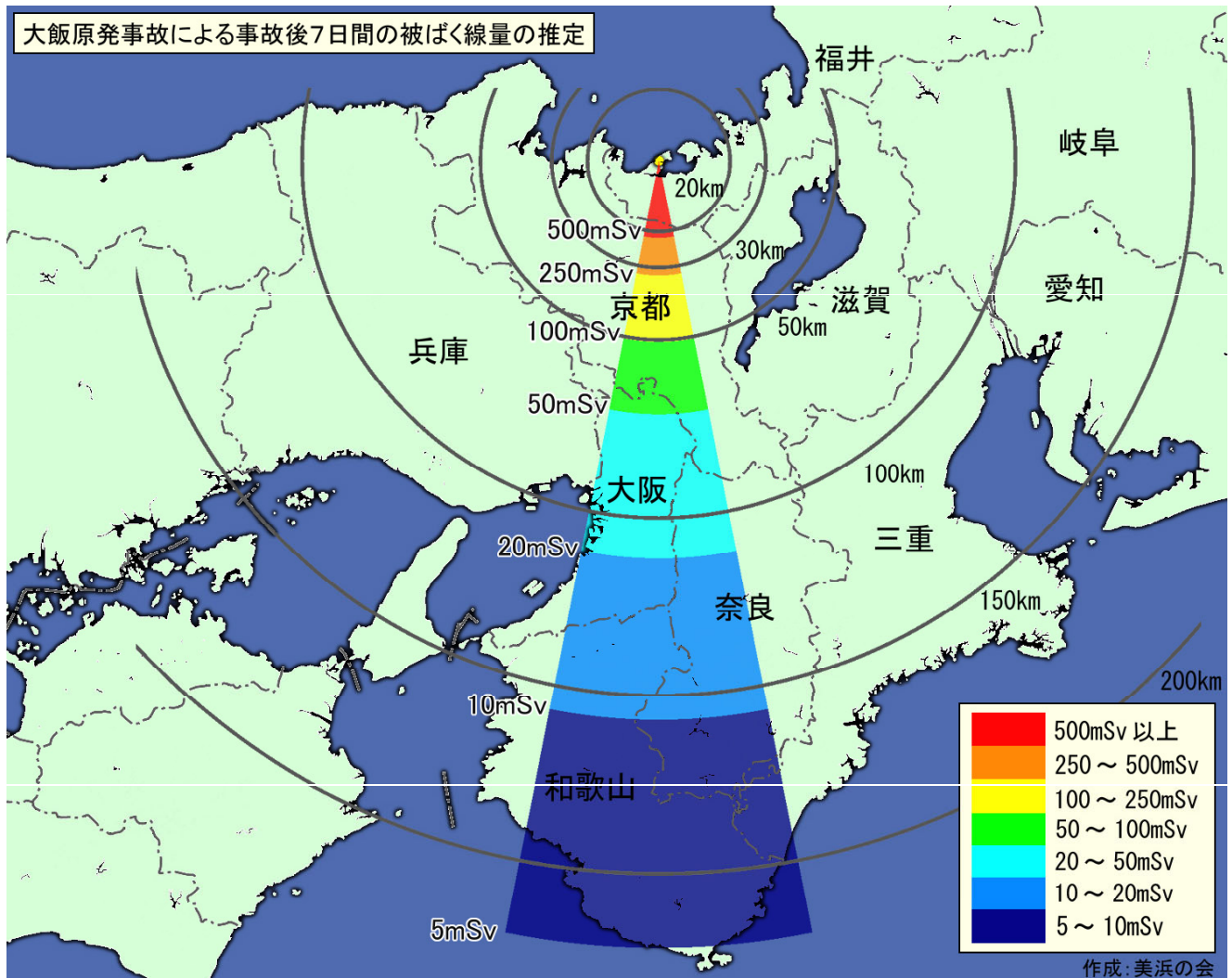
原子力規制委員会の被ばく予測は過小評価

◆7日間の被ばく線量の予測は、本当はもっと深刻です

大飯原発で事故が起これば・・・

- 30^キの京都北部 → 250ミリシーベルト
- 50^キの京都・滋賀 → 100ミリシーベルト
- 100^キの大阪・奈良 → 20ミリシーベルト
- 150^キの和歌山 → 10ミリシーベルト

◎扇形の区域の中央付近では、被ばく量は3倍に



※原子力規制委員会が2012年10月24日に公表した拡散シミュレーションに基づいて計算した。事故発生時の風向きは主として南方向に吹いていた場合を想定し、風向が南向きとなる出現頻度を、規制委が想定した20%ではなく、50%として算出したもの。被ばく線量は、事故後7日間に受ける累積の実効線量で、中心角22.5度の区域の幅で平均した値を示しており、扇形の区域の中心付近では、その平均の値の3倍程度の線量となる。

原発事故を繰り返さないためには、運転停止しかありません